

鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略

～ 令和元年度までの推進状況 ～

(令和2年10月)

鹿 角 市

目 次

I. 総括検証

- (1) 評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 重点的課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

II. 施策ごとの検証

基本目標 1 笑顔あふれる雇用をつくる

- (1) 域外市場産業の活性化・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 地域資源の循環・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (3) 産業人材の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

基本目標 2 笑顔あふれる人の流れをつくる

- (1) 首都圏等からの移住の促進・・・・・・・・・・・・ 9
- (2) 都市ブランドの確立・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

基本目標 3 笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる

- (1) 結婚しやすい環境づくり・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (2) 安心して出産できる環境づくり・・・・・・・・・・ 14
- (3) 子育て支援サービスの充実・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (4) 子育てに伴う経済的負担の軽減・・・・・・・・・・ 15

基本目標 4 笑顔あふれる地域をつくる

- (1) まちなか賑わい創出・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- (2) 地域コミュニティの活力再生・・・・・・・・・・・・ 19
- (3) 健康生き生き長寿社会の実現・・・・・・・・・・・・ 21

III. 検証スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

I. 総括検証

(1) 評価

「笑顔あふれる元気な『かづの』」を目指して取組を進めている「鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の5年目¹が終了し、当資料にて令和元年度までの進捗状況をまとめた。

暮らしやすい地域づくりのための最も重要なアウトカムとして設定した4つの基本目標については、基本目標1の「雇用創出数」が目標値を上回る成果となった一方、基本目標2の「転入者数」と基本目標3の「合計特殊出生率」は基準値を下回り、基本目標4の「住みごこちの満足度」については、前回を上回ったものの、基準値を下回る状況が続く結果となった。

基本目標1については、販売重視型農業の推進や日本版DMOを中心とした観光誘客の促進のほか、製造業を中心とする企業の設備投資の拡大等によって、雇用創出数の拡大に結び付いている。

基本目標2については、転入者数の減少が続いているものの、移住定住の取組によって減少幅の抑制が見られる。中でも「しごと」に重点を置いた移住施策の展開によって移住に至った実績が生まれ、基本目標1との政策間連携が奏功している。

基本目標3については、合計特殊出生率（H25-H29）が1.43となり、前回の1.58から0.15ポイント減少した。医療体制の確保や子育て支援メニューの充実を図ってきた一方で、婚姻率の低下が出生率を下げる一つの要因となっており、婚姻率の改善に向けた対策強化が必要である。

基本目標4については、まちづくりの根幹となる指標を掲げている。人口減少が進行しつつも持続性ある地域社会の形成に向け、引き続き、中心市街地の都市機能の維持と地域コミュニティの活性化がバランスよく両立できるまちづくりが必要である。

KPI（重要業績評価指標）については、全体で67指標のうち66指標が評価対象となったが、5年目を終えた時点で「目標に到達した指標」及び「目標には到達していないが当該年度までの計画以上に目標に近づいた指標」の割合は全体で48.5%となった。

次ページ以降には、施策ごとの検証結果を記載しているが、抽出された課題を踏まえながら、各事業間の効果的な連携を図り、基本目標の達成に向けて一層取組を進めていく必要がある。

【基本目標の状況】

目標値（R1）	実績値					評価
	H27	H28	H29	H30	R1	
基本目標1【雇用創出数：累計320人増】 笑顔あふれる雇用をつくる	62人増	147人増	217人増	319人増	386人増	目標達成
基本目標2【転入者数：年間710人】 笑顔あふれる人の流れをつくる	626人	595人	533人	522人	519人	一層の取組が必要
基本目標3【合計特殊出生率：1.80】 笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる	—	—	—	—	1.43	一層の取組が必要
基本目標4【住みごこち（満足度）：60%】 笑顔あふれる地域をつくる	55.2%	52.5%	51.1%	43.1%	53.8%	一層の取組が必要

¹ 令和2年3月に改訂を行い、計画期間を第6次総合計画後期基本計画の終了年度である令和2年度末までの6か年とした。

【KPI の状況】

基本目標区分		指標数			
				うち着手事業分	
				計画どおり ²	計画どおりではない
基本目標 1 笑顔あふれる雇用をつくる	件数	28	27	12	15
	割合			44.4% (H30 : 50.0%)	55.6% (H30 : 50.0%)
基本目標 2 笑顔あふれる人の流れをつくる	件数	10	10	7	3
	割合			70.0% (H30 : 50.0%)	30.0% (H30 : 50.0%)
基本目標 3 笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる	件数	9	9	3	6
	割合			33.3% (H30 : 44.4%)	66.4% (H30 : 55.6%)
基本目標 4 笑顔あふれる地域をつくる	件数	20	20	10	10
	割合			50.0% (H30 : 50.0%)	50.0% (H30 : 50.0%)
全体	件数	67	66	32	34
	割合			48.5% (H30 : 49.2%)	51.5% (H30 : 50.8%)

(2) 重点的課題

社会減の解消が人口減少及び少子高齢化の抑制に効果的であることから、初年度より移住促進に力を入れて、転入数の増加に努めているが、目標値に近づくことができていない。7月末に発表された合計特殊出生率（H25-H29）は、前回数値を 0.15 ポイント下回っており、依然として人口の自然減に歯止めがかかっていないものと考えられる。

人口減少が続く中で、持続可能な社会を維持していくためには、減少スピードを緩やかにしつつ、バランスの良い年齢構成を構築していくことが必要である。そのため、地域経済を維持する生産年齢人口の維持を図りながら、親世代の増加と出生数の向上、そして、元気で健康な高齢者の割合を高めていき、人口構造の若返りを図ることを重点的課題としながら、地方創生の取組を強化していく。

² 「計画どおり」とは、「目標に到達したもの」と「目標には到達していないが単年度の計画以上に目標に近づいたもの」との合計をいう。

II. 施策ごとの検証

基本目標 1

笑顔あふれる雇用をつくる

基本的方向

本市の魅力を生かした商品やサービスを生み出し、それを域外に移出することで「外貨」を呼び込み、その資金を域内循環させることで地域の所得向上を図るとともに、雇用環境の創出（拡大）を目指す。また、これらの取組の実現を目指すため、産業振興を担う人材の確保に取り組む。

数値目標	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
雇用創出数	—	累計 62 人増	累計 147 人増	累計 217 人増	累計 319 人増	累計 386 人増	累計 320 人増

【検証：現状と方向性】

外貨獲得に向けた産業振興策として、新規ブランド農産物の育成や経営サポートによる支援等により、販売重視型農業を推進するとともに、日本版 DMO による観光産業の取組の強化や、産業コーディネーターを中心に食品製造関連ネットワークを生かした受注の拡大など、農業、観光業、製造業それぞれで本市の魅力を生かした商品やサービスが拡充しつつある。

また、企業立地推進事業の高度化支援による雇用増が 51 人、創業支援事業計画に基づく起業・創業者が 14 人となるなど、令和 2 年度の目標値を上回るペースで雇用が生み出されている。

一方、有効求人倍率は、企業が高齢者雇用の促進等の柔軟な働き方を導入したことで減少傾向にあるが、令和 2 年 6 月時点では 1.39 倍と県内で最も高い状況が続いている。そのため、人材確保に向けた関係機関との共同宣言のもと、地元就職促進活動の継続と高校生や市出身者に対する SNS を活用した就職情報の発信等を強化していく。

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

(1) 域外市場産業の活性化

(ア) 競争力の高い産業の育成

① 農業生産物の高付加価値化

○ 農業経営体の強化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
経営サポートチーム への相談件数	—	—	13 件	46 件	102 件	143 件	30 件

○ 複合経営の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
主力作物作付面積	56.3ha	57.3ha	59.1ha	67.8ha	56.2ha	53.0ha	70.0ha

○ ブランド確立・新ブランド育成

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
淡雪こまち 1 等米比率	83.8%	91.0%	88.9%	64.4%	86.2%	89.1%	90.0%
玄そば品質区分 2 等級以上	0%	99.7%	100%	100%	100%	100%	100%
北限の桃の年間販売額	1.4 億円	1.5 億円	1.1 億円	1.1 億円	0.7 億円	1.3 億円	2.0 億円
かつの牛の飼養頭数	345 頭	396 頭	450 頭	517 頭	544 頭	548 頭	591 頭
新規作物取り組み経営体数	—	3 経営体	6 経営体	14 経営体	16 経営体	18 経営体	11 経営体
こだわり作物栽培実践者	—	—	6 経営体	12 経営体	11 経営体	15 経営体	100 経営体

【検証】

- 農業経営体の強化については、経営サポートチームへの相談件数が目標値を大幅に上回りながら増加しており、個人・組織の経営改善につながっている。
- 複合経営の推進については、水田転換主力作物づくり支援事業による支援のもと、作付面積の減少はあったが、採算性の高い枝豆、ネギ、シンテッポウユリへの転換は進んでいる。
- ブランドの確立・新規ブランドの育成については、淡雪こまち、北限の桃、かつの牛ともに作付面積や飼養頭数を伸ばしているが、生産者の高齢化が課題となっている。一方、新規ブランドとして育成しているシンテッポウユリは、市場需要の高さから新規就農者等の取組が多く、将来的にも安定した生産が見込まれており、ブランドの確立に向け支援を講じていく。

② 地元企業の高度化支援

○ 設備投資支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
新增設及び 事業の高度化件数	—	13 件	累計 24 件	累計 38 件	累計 56 件	累計 70 件	累計 50 件
小規模事業者応援件数	—	—	—	—	—	—	累計 40 件

○ 新商品開発・販路拡大支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
新商品研究開発件数	—	累計 2 件	累計 5 件	累計 10 件	累計 12 件	累計 12 件	累計 30 件

【検証】

- 設備投資支援については、企業立地助成金により生産性の向上や売上増加につながる支援をしたことで、製造品出荷額等は前年並みに維持された。しかし、労働需要の高まりに対して労働供給が追いついておらず、人手不足感は依然として高い。人手不足は企業の顕在的な経営課題となっていることから、生産活動への ICT や IoT などの導入を促進するとともに、外国人材の確保や地域づくり人材の確保に向けた取組を推進することが必要となっている。小規模事業者応援（事業継承支援）については、具体的な制度設計には至っていない。
- 新商品開発については、開発件数は伸びていないが、産業コーディネーターがハブとなりながら、メイドイン鹿角製品の試作機開発が進んだ。

③ 観光産業の振興

○ 誘客活動の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
観光客数	175 万人	177 万人	169 万人	175 万人	178 万人	177 万人	195 万人
宿泊者数	22 万人	23 万人	23 万人	23 万人	24 万人	23 万人	25 万人
外国人宿泊者数	4,000 人	5,498 人	7,241 人	14,311 人	15,207 人	14,743 人	8,000 人

○ 効果的な PR

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
有料ファン会員	—	—	48 人	累計 95 人	累計 187 人	累計 245 人	累計 2,500 人

○ 魅力の向上

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
主要観光施設の入込客数	175 千人	179 千人	169 千人	167 千人	254 千人	256 千人	249 千人

○ 鹿角観光の確立

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
観光消費額 ³	8,335 百万円	7,233 百万円	4,827 百万円	4,683 百万円	4,545 百万円	4,746 百万円	8,668 百万円

³ 平成 30 年秋田県観光統計における秋田県全体の観光消費額の推計値から鹿角市分を推計したもの。

【検証】

- 誘客活動の推進については、着地型旅行商品「かづのプレミアムツアー」の造成販売により、本市を目的地とした新たな国内需要を生み出したほか、広域連携によるインバウンド誘客で初のタイツアー客の入込みがあり、東アジアを中心に外国人観光客を獲得した。
- 効果的な PR については、楽天と連携したプロモーションを実施し、Instagram や LINE 等の SNS を活用したツアー商品の紹介や観光ファンの獲得につながる情報発信を行った。
- 魅力の向上については、「かづのプレミアムツアー」の実施により、本市の観光誘客コンテンツの磨き上げにつながった。また、新たにオープンした鹿角花輪駅前観光案内所から道の駅かづのや史跡尾去沢鉱山、道の駅おおゆから大湯環状列石などへのエリア内での周遊が実現しており、立寄り施設の入込数の確保に結び付いている。
- 鹿角観光の確立については、観光産業推進ミーティングや事業所訪問により、各事業者の「稼げる観光」に対する意識醸成を図っており、観光業界の一体感の醸成と若手経営者の成長が見られる。また、本市観光のプラットフォームである地域 DMO（株式会社かづの観光物産公社）の単年度収支が2年連続で黒字計上となり、鹿角観光の推進体制の強化が図られた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で観光産業は大きな打撃を受けており、一刻も早い市内観光の回復に向けた取組が必要である。

（イ）新産業の創出

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
誘致企業数	—	0 社	0 社	3 社	累計 3 社	累計 3 社	累計 1 社
起業・創業者数	—	7 件	累計 15 件	累計 27 件	累計 39 件	累計 53 件	累計 42 件

【検証】

- 新産業の創出においては、これまで 3 社の企業誘致が実現しているが、昨今は地方回帰や国内回帰の機運が高まっていることから、引き続き積極的な誘致活動を進めていく。また、起業・創業支援においては、若者や女性に対する補助制度、金融機関などの支援も相まって令和元年度は新たに 14 件の創業に結び付いた。

（2）地域資源の循環

（ア）地域内連携の活性化

○ 異業種連携の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
アグリビジネス支援件数	—	—	2 件	累計 3 件	累計 6 件	累計 6 件	累計 10 件

○ 地産地消の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
かつの産食ショップ 認証事業所数	—	17 事業所	27 事業所	30 事業所	30 事業所	30 事業所	90 事業所
新電力設立数	—	—	0 社	0 社	0 社	1 社	累計 1 社

【検証】

- 異業種連携の推進については、農産加工及び販路拡大など、農業を産業として躍進させるための6次産業化につながる支援を継続している。令和元年度は相談が8件あったものの、事業化には至らなかったことから、アグリビジネス支援事業や鹿角マルシェ推進事業の支援等を通じて意識醸成を図りつつ、事業の実施向上を図っていく。
- 地産地消の推進については、令和元年7月に自治体新電力として設立した株式会社かつのパワーが令和2年4月から市所有32施設に電力供給を開始している。

(イ) 地域商業の活性化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
ハミングカード・コナン カードポイント付与数	14,688 千 ポイント	15,434 千 ポイント	18,133 千 ポイント	15,770 千 ポイント	15,930 千 ポイント	14,288 千 ポイント	15,000 千 ポイント

【検証】

- 商店街支援については、商店街連携会議での協議を通じて、秋田県よろず支援拠点⁴の参画のもと、個々の店舗の魅力向上及び店主の意識改革を目的とする「0円店舗改善」に3店舗が取り組んだ。顧客の増加や店舗側の意識改革に一定の成果は見られたものの、商店街エリアへの新規出店を支援する「商店街店舗創出パワーアップ事業」の利用がなかったことは、個店の魅力づくり以上に商店街としての魅力づくりが不足していることが要因と捉えており、商店街での起業意欲が高まる施策が必要である。
- 商店街の歩行者数は減少傾向にあり、イベントの実施が商店街店舗の集客ひいては商店街への来訪につながっていないことから、商店街連携会議において、継続して課題を議論し、対策を打ち出していく必要がある。

⁴ コーディネーターを中心とする専門スタッフによる秋田県内の中小企業・小規模事業者のための経営相談所（公益財団法人あきた企業活性化センター内）。

(3) 産業人材の確保

(ア) 人材の育成

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
新規農業参入企業	—	—	—	2 社	累計 4 社	累計 4 社	累計 5 社
産業人材育成支援事業活用者数	—	47 人	累計 107 人	累計 167 人	累計 228 人	累計 273 人	累計 300 人

【検証】

- 人材の育成については、「産業人材育成支援事業」により、産業を担う人材の能力開発を行っている。令和元年度では 45 人の活用者が出ており、目標達成に向けて順調に推移している。また、鹿角の産業界を先導できる人材の育成を目指し開催している「産業活力塾」では、若手 12 人が受講し専門的指導を受け、自社の経営力の向上や新たな起業家の誕生などに寄与している。

(イ) 就業支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
新規就農者数	—	1 人	累計 1 人	累計 6 人	累計 11 人	累計 13 人	累計 12 人
A ターン就業者数 ⁵	—	—	—	—	—	0 人	累計 120 人
資格取得支援事業活用者数	—	81 人	累計 98 人	累計 104 人	累計 112 人	累計 115 人	累計 150 人

【検証】

- 新規就農者については、研修制度の利用促進のほか就農直後の経営支援にも取り組み、新たに 2 人が就農した。今後は、移住就農者や 50 歳以上の中年層の人材も確保できるよう、就農相談セミナー等に積極的に参加し、的確な情報発信を行っていく必要がある。
- UII ターンによる就業者数については、東京 23 区在住者及び 23 区の企業等へ東京圏から通勤している方を対象に本市企業への就業を促す取組を展開しているが、これまで実績はない。「しごと」と「移住」を結びつけることの重要性と可能性が地域で再認識されてきていることから、Uターンに重点を置き、戻ってきたいと思える環境を整えていく。
- 40 歳未満の若年者の職業能力を向上させるための資格取得支援については、新たに 3 人が活用した。引き続き、労働者の能力向上につなげていくことが必要である。

⁵ 「鹿角市ふるさとライフ移住しごと支援事業」の実績による。

基本目標 2

笑顔あふれる人の流れをつくる

▶ 基本的方向

移住しやすい環境を整備し、移住に結び付く情報発信やイベントを通じて UIJ ターンを促進するとともに、移住予備群となりうる交流人口の拡大を目指す。

他自治体との差別化を図りつつ自立的な活性化を進める観点から、鹿角ならではの独自の価値や誇りを具現化する「鹿角ブランド」を確立し、観光客など交流人口の拡大を図りながら地域経済を活性化し、ひいては人口の流入増、流出減をもたらすことで持続的発展につなげていくことを目指す。

数値目標	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
転入者数(年間)	648 人 (直近5年平均)	626 人	595 人	533 人	522 人	519 人	710 人

【検証：現状と方向性】

転入者数については、依然として減少が続いているが、減少幅が抑制されてきており、令和元年度は前年度より 3 人減にとどまった。移住定住促進に積極的に取り組んできた結果、令和元年度までの 5 年間で 137 世帯 225 人が移住しており、令和元年度は 38 世帯 56 人と微増ではあるが、前年度実績（35 世帯 54 人）を上回るなど着実な成果が見られる。

今後は、移住コンシェルジュの継続配置に加え、移住促進業務の委託先である NPO 法人かつの classy がより主体的に取り組める体制を構築していくとともに、「しごと」に重点を置いた移住促進策を実施し、Uターンに重点を置いた取組を展開していく。

また、関係人口の先にある移住を見据えながら、関わりしらの発掘やマッチングなど、「鹿角家」を生かした地域活性化の方法を模索・実践していく。

▶ 重要業績評価指標（KPI）

(1) 首都圏等からの移住の促進

(ア) 移住の促進

○ 移住促進体制の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
移住・定住サポーター登録者数	—	32 人	71 人	84 人	98 人	123 人	110 人

○ 移住情報の発信

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
移住窓口への相談件数	—	89 件	累計 311 件	累計 546 件	累計 816 件	累計 1,034 件	累計 400 件

○ 移住体験機会の提供

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
お試し移住ツアーの開催回数	—	7 回	累計 15 回	累計 29 回	累計 38 回	累計 48 回	累計 30 回

○ 定住の支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
データバンク成約件数	—	6 件	累計 16 件	累計 31 件	累計 49 件	累計 59 件	累計 12 件

【検証】

- 移住促進体制の整備については、移住コンシェルジュを継続配置し、情報発信や現地案内（ツアー）、移住相談などに応じており、移住・定住サポーター登録者数は目標値を上回った。受入態勢をより充実させていくため、NPO 法人かつの classy が主体的に取り組める体制を構築しながら、組織の強化を図っていく。
- 移住情報の発信については、移住フェアでの PR や移住専用ホームページ、SNS（Facebook 広告、LINE）活用により、相談件数は目標値を大きく上回る結果となった。特に LINE の友達登録数は昨年に引き続き大幅に増加しており、移住実績に大きく寄与している。
- 移住体験機会の提供については、TOKYO FM とのコラボ企画や、いつでもお試しツアーにおいて、「しごと」に特化した内容を提供しており、ツアー参加を通じて仕事を決定し、移住に至った実績が生まれている。
- 定住の支援については、宅地・建物データバンクの成約件数が増加しており、引越し支援補助金の利用者も増加している。

（イ）地域間交流の推進

○ 都市農村交流の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
宿泊を伴った 農作業等体験者数	—	24 人	累計 55 人	累計 84 人	累計 115 人	累計 141 人	累計 125 人

○ スポーツ交流の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
スポーツ合宿奨励補助金 利用人数（年間）	3,231 人	3,326 人	2,464 人	2,165 人	2,787 人	3,292 人	3,600 人

○ 大学等との連携

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
県外大学等調査研究活動 奨励補助金利用人数	—	—	24 人	累計 66 人	累計 356 人	累計 401 人	累計 500 人

【検証】

- 都市農村交流の推進にあたっては、宿泊と農業体験を提供できる受入世帯の確保が課題であることから、民泊と農業体験を切り離した受入体制に見直しながら、引き続き交流の拡大を図っていく。また、東京都葛飾区との交流については、包括的連携協定によって、ふるさと葛飾盆まつりへの毛馬内盆踊りの出演や、寅さんサミットでの地域特産品を活用したコラボメニュー商品の開発・販売など、本市の PR につながる機会の拡大が図られている。
- スポーツ交流の推進では、キャプテン翼杯の開催や FC バルセロナ葛飾校サマースクールの受入れなど、葛飾区との交流事業が定着しているほか、全国規模のスキー大会が続いていることによる事前合宿の実施などがスポーツ合宿利用者の増加に寄与した。
- 大学等との連携については、武蔵野大学の長期学外学修プログラムや、筑波大学の社会教育ゼミの受入れによって、大学生と地域団体や地域住民の交流を深めるとともに、大学生の視点による地域活性化に関するアイデア等の提案を受け、市民とともに地域活性化策を考える機会を確保した。

(2) 都市ブランドの確立

(ア) ブランドコンセプトの確立

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
鹿角に愛着を持つ人の割合	—	77.3%	73.6%	69.3%	63.1%	68.4%	70.0%

【検証】

- 「鹿角ブランド推進指針」に基づくアクションプランのもと、シビックプライド醸成講座の開催や、かづの高校生広報室の活動などを通じて、市民一人ひとりが本市のイメージや魅力をより広く認知する機会を提供したことで、前年度より愛着を持つ人の割合の増加につながった。

(イ) 地域資源の信頼向上

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
鹿角市の全国的な魅力度順位	564 位	510 位	525 位	414 位	510 位	478 位	300 位

【検証】

- 基準値、前年実績値ともに上回る順位となった。要因としては、ブランド農産品である淡雪こまちや北限の桃の作付け拡大やかづの牛の飼育頭数の増大、さらにはシンテッポウユリなど新規ブランド作物の産地拡大の取組などが市場や消費者の信頼獲得に繋がったものと捉えている。また、本市の観光プラットフォームに位置付けている地域 DMO（株式会社かづの観光物産公社）の組織体制強化により、「鹿角ブランド推進指針」によるブランドストーリーを踏まえた「かづのプレミアムツアー」をはじめとする本市の強みを生かした着地型旅行商品の開発及び展開が実現したことなどが影響したものと捉えている。

(ウ) 魅力の発信

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
鹿角市の全国的な認知度順位	711 位	661 位	660 位	686 位	684 位	672 位	500 位

【検証】

- 基準値、前年度実績値ともに上回る順位となった。ふるさと鹿角応援寄附金については、件数が前年比 280.7%、金額が 266.6%と、ともに前年を大きく上回る結果となり、本市の認知度向上の大きな役割を担ったといえる。また、シティプロモーション認定事業では、2 件の首都圏でのイベント開催を支援したほか、「地域開発映画プロジェクト」の取組がロケーションジャパン特別賞を受賞するなど、首都圏等において本市の知名度の向上に大きく寄与したと捉えている。

基本目標 3

笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる

▶ 基本的方向

結婚を望む独身男女への出会いの場の提供と結婚に向けた支援を行うほか、保育環境の充実により待機児童ゼロを維持するとともに、出産・子育てに要する経済的な負担を軽減するなど、子どもたちが健やかに生まれ育つことのできる環境づくりを進め、若い世代が結婚・出産・子育てしやすいまちを目指す。

数値目標	基準値	実績値	目標値
合計特殊出生率	1.58 (H20-H24)	1.43 (H25-H29)	1.8 (R2)

【検証：現状と方向性】

結婚しやすい環境づくりに向けた独身男女に対する出会いの場の提供や、出産の不安や負担を軽減するための妊産婦支援、さらには子育て支援サービス充実や子育てに伴う経済的負担の軽減の拡充によって若い世代が結婚・出産・子育てに希望を持てるよう取組を強化してきた。

しかしながら、全国的な医師不足を背景に、本市でも小児・産科医の不足は続いており、近隣地域への分娩機能の集約は、安心して出産できる環境づくりの大きな課題となっている。また、本市の出生率・婚姻率⁶（人口千人対）は、上昇と減少を繰り返しながら下降してきているが、婚姻率と出生率には一定の関係性が見られることから、婚姻率の改善を図ることも課題となっている。

令和2年7月末には最新の合計特殊出生率が発表され、本市は前回の1.58から0.15ポイント減少の1.43となった。県内では2番目の高さであり、子育て支援の優位性は依然として高いものの、前回からの低下は本市が抱える課題が影響していると考えられる。

若者の結婚や子育ての希望を実現するためには、必要な時に適切な医療を受けられる地域医療体制の構築とともに、仕事と生活の調和を確保しながら、包括的な子ども・子育て支援によって、生まれた環境によって子どもの将来が左右されることのない成長環境の構築が必要であり、新たな対策として取り組んでいく。

⁶ 秋田県衛生統計年鑑をもとに分析。平成30年は人口千人当たりの出生率が5.2、婚姻率が3.1となっているが、平成20年に婚姻率が4.0を下回って以降、出生率も6.0を下回り下降している。なお、平成30年は秋田県平均と同じ率となっているが、県内13市で見ると、出生率・婚姻率はともに3番目の高さとなっている。

▶ 重要業績評価指標（KPI）

(1) 結婚しやすい環境づくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
出会いイベント提供数	—	10 件	累計 16 件	累計 22 件	累計 29 件	累計 37 件	累計 40 件

【検証】

- 出会いイベントの開催支援や、市が主催した出会い応援講座（恋愛指南塾）の開催等により、独身男女の出会いの機会の充実が図られている。しかし、出会いイベントの参加者の固定化が見られ、新規参加者の確保が難しくなっている。今後も出会いの機会を広げていく必要があることから、イベント周知の方法について改善を図りながら参加者を募るとともに、あきた結婚支援センターや結婚サポーターとの連携を図りながら、地域全体で結婚を応援する機運を高めていく。

(2) 安心して出産できる環境づくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
市内の産婦人科医師数	3 人	3 人	3 人	3 人	1 人	1 人	3 人

【検証】

- 医師不足を背景に、平成 30 年 10 月から市内の分娩取扱機能が大館市立総合病院に集約され、かつの厚生病院の産婦人科医は非常勤となっている。本市では、市外での出産に伴う病院までの距離的な不安や経済的負担の軽減を図る交通宿泊費助成や、母子の健康や家庭環境の実態把握による健康・育児支援を行う「子育て世代包括支援センター」の取組を充実させながら、支援体制を強化している。今後は、交通宿泊助成制度の見直しや里帰り出産の妊婦対応の検討により、更なる支援の充実を図っていく必要がある。しかし、分娩再開を望む市民の声は大きいことから、引き続き関係する各病院の理解を得ながら、産婦人科医の確保に向けた取組を進めていく。

(3) 子育て支援サービスの充実

○ 母子の健康づくり支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
むし歯の無い 3 歳児の割合	69.6%	68.6%	69.1%	79.0%	83.9%	80.3%	80.0%

○ 子どもの預かり支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
放課後児童クラブの待機児童数	1人	1人	3人	0人	0人	19人	0人

○ 保育体制の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
保育園の待機児童数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

○ 小児医療等の確保

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
小児・産婦人科医師数	6人	6人	6人	6人	3人	3人	6人

【検証】

- 母子の健康づくり支援については、妊婦と乳幼児の健康診査や歯科健診等を実施している。2歳児のフッ化物塗布を継続していることにより、むし歯のない3歳児の割合が目標値を上回って推移しており、事業の取組が成果として表れている。
- 子どもの預かり支援については、5つの放課後児童クラブ（大湯・平元・尾去沢・八幡平・花輪北）で高学年の受入を開始したが、定員を上回る申し込みがあり、19人の待機児童が発生した。全クラブでの高学年の受入態勢を整えるため、施設の確保とそれに見合った支援員の確保が課題となっている。
- 保育体制の充実については、病児・病後児保育や一時預かり、障害児保育、延長保育等を実施しており、多様化する保育需要に対応している。また、保育補助者の雇用支援を行いながら、保育人材の確保を図っている。
- 小児医療等の確保については、かつの厚生病院に対する小児・救急医療運営費助成や岩手医科大学への地域医療推進学講座に基づく各種事業を実施することで、医師数の確保に努めているが、分娩機能の集約や開業医の閉院等により、小児・産婦人科医師数は3人のままとなっている。地域医療を維持するため、医師の確保や医師の開業支援等に継続して取り組んでいく。

(4) 子育てに伴う経済的負担の軽減

○ 保育料の軽減

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
保育料軽減率(全体)	29.0%	31.1%	33.1%	32.6%	37.1%	30.1%	30.0%

○ 第3子以降の子育てにかかる費用の軽減

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
出生数に占める 第3子以降の割合	22.7%	24.7%	23.2%	23.3%	16.9%	23.2%	28.7%

○ 医療費の助成

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
子育て支援の満足度	46.2%	55.8%	53.7%	48.3%	45.0%	52.8%	57.0%

【検証】

- 保育料の軽減及び第3子以降の子育てにかかる費用の軽減については、国の3歳児の保育料無償化が令和元年10月より開始されたことにより、子育て世帯の経済的支援が拡充された。さらなる子育て支援の充実を図るためには、保育料及び副食費の利用負担をしている一部世帯があることを踏まえ、保育料等無償化の完全実施の検討を進める必要があるが、経済的支援策の拡充策はほぼ上限に達しており、少子化対策を進めていく上では結婚支援対策に重点を置き、取組を強化していくことも必要である。
- 医療費の助成については、平成28年度から高校生世代まで給付対象を拡大した福祉医療給付や小児インフルエンザ予防接種助成等により、子育て世代の負担軽減に努めている。

基本目標 4

笑顔あふれる地域をつくる

▶ 基本的方向

人口減少が進行しつつも持続性ある地域社会の形成を図るため、中心市街地の魅力や快適性・利便性、交通アクセスを向上させることにより賑わいを創出し、本市における拠点性の維持を目指す。

また、地域住民が主体性を持ち、地域課題の解決に向けた活動に取り組めるよう支援体制をさらに強化するとともに、地域活動に積極的に取り組む人材の確保と育成を進め、自治会をはじめとする地域コミュニティの活性化を目指す。

さらには、健康ではつらつとしたシニアライフを楽しむことができ、また、何らかの支援が必要になった場合でも、住み慣れた地域で自立した生活ができる社会の実現を目指す。

数値目標	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
住みごこちの満足度	54.7%	55.2%	52.5%	51.1%	43.1%	53.8%	60.0%

【検証：現状と方向性】

住みごこちの満足度が昨年から 10.7 ポイント増加し、53.8%となった。住みごこちは、福祉や雇用、コミュニティなどを含む総合的な指標で、定住意識の根幹となるものであり、今回いずれの年代でも上昇が見られたことは、持続性ある地域社会の形成に向け、前進しているものと捉えている。

満足度のさらなる向上を図るため、本市の持つ魅力を十分発揮したまちづくりと計画的な社会基盤の整備を推進し、中心市街地については、都市機能を維持しながら、周辺地域からの交通アクセスを向上させ、居住人口の確保を図りながら、賑わいの創出につなげていく。

また、地域コミュニティについては、集落支援員による支援を継続し、自治会の活性化を図っていくとともに、介護予防や認知症対策など、地域で支え合える体制の確立を進めていく。

▶ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

(1) まちなか賑わい創出

(ア) 中心市街地の魅力の向上

○ 商業機能等の集積

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
商店街空き店舗数	35 店舗	35 店舗	38 店舗	38 店舗	40 店舗	38 店舗	23 店舗

○ 多彩なイベント

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
がんばる商店街応援事業 イベント参加者数	11,700 人	17,933 人	28,206 人	8,070 人	27,135 人	7,990 人	12,300 人

○ 地域資源の保存・創出

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
民俗資料館入館者数(年間)	200 人 (直近3年平均)	—	—	1,406 人	1,984 人	1,619 人	1,000 人

【検証】

- 商業機能等の集積については、空き店舗バンクを開設しており、令和元年度は2件が成約となったが、花輪駅前のスーパーや花輪商店街における老舗店舗の廃業など、商店街の営業店舗数は減少傾向にあり、商店街への新規出店も芳しくない状況にある。商店街への新規出店を支援する「商店街店舗創出パワーアップ事業」については、複数件の問い合わせがあったが、申請に至らず、商店街の魅力が低下していることが最大の要因と捉えている。
- イベントの開催については、平成30年度に花輪ばやし関連のイベントを実施したことから、令和元年度の参加者数は前年比で大幅な減少となっている。また、平成29年度実績も下回る数値であることから、イベントの在り方を引き続き商店街連携会議において議論する必要がある。特に、商業機能の集積との連動は不可欠であり、個々の店舗改善と商店街としての魅力づくりがイベントの活用により相乗効果として高まっていくことが必要である。
- 地域資源の保存・創出については、文化財の調査と記録保存、花輪ばやし屋台の修理支援を行った。歴史民俗資料館では、特別展示（企画展）も展開するなど、年間の利用者は目標を上回る1,619人となっている。

(イ) 中心市街地における快適性や利便性の向上

○ 社会基盤の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
中心市街地の環境に 満足している市民の割合	53.5% (4年平均)	59.0%	53.8%	49.1%	52.9%	49.7%	59.5%

○ まちなか居住の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
中心市街地歩行者数	4,307 人	3,351 人	3,543 人	2,925 人	2,632 人	2,266 人	4,780 人

【検証】

- 社会基盤の整備については、鹿角花輪駅前整備事業が予定どおり進み、観光案内所の建築が完了した。広場整備工事についても、令和2年7月に工事が完了となった。
- まちなか居住の推進については、中心市街地の都市機能を高めるため、アクセス向上のための交通結節点の機能維持など、安全で快適な都市空間の整備進めていることから、中心市街地域内における居住人口を確保していくため、まちなかの空き家を活用した住み替え支援の有効策を検討していく。

(ウ) 中心市街地のアクセス向上

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
たんぽこまち号の 利用人数（年間）	14,950 人	15,210 人	14,594 人	13,729 人	13,953 人	13,355 人	15,871 人
数年間公共交通を利用 したことが無い人の割合	58.8%	55.8%	55.0%	66.3%	60.8%	67.8%	50.0%

【検証】

- 市街地循環バス「たんぽこまち号」の利用者は昨年度より減少し、乗車密度も8人台を割る7.95人／便となった。地域乗合交通については、3自治会のうち、2自治会が自治会負担のない好調な運行となったほか、八幡平地域予約型乗合タクシーの実証実験を実施し、関係自治会との協議を経ながら令和2年度からの運行に至った。中心市街地へのアクセス向上のためには、公共交通空白地域への対応が必要であり、既存の運行支援等の状況を継続的に検証するとともに、各地域の抱えた事情やニーズを十分把握し、その地域に最も適した交通手段を確保していく。

(2) 地域コミュニティの活力再生

(ア) 地域人材の確保

○ 人材育成プログラム

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
人材育成塾延べ塾生数	—	—	—	16 人	36 人	62 人	60 人

○ 外部人材の活用

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
外部人材※活用自治会数	—	—	—	5 自治会	累計 9 自治会	累計 18 自治会	累計 16 自治会

※ 地域おこし協力隊、集落支援員、復興支援員、外部専門家及び地域おこし企業人等

【検証】

- 人材育成プログラムについては、鹿角 GENKI カレッジの一般向け総合講座や塾生向けの専門講座を実施したほか、塾生座談会を初開催し、実践活動について協議を行った。人材育成のためには、塾生主体の企画を実現できる行動力ある塾生を育成する必要があることから、実践的かつ自主的な事業活動につながる講座の提供を行っていく。
- 外部人材の活用については、集落支援員の配置により、新たに9自治会が自らの活性化に係る活動計画を策定し、次年度の活動につなげていく話し合いを実施した。集落支援員の活動について周知が図られてきていることから、さらなる活用の促進に向けPRを図っていく。

(イ) コミュニティ支援体制の強化

○ 地域づくり協議会の強化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
地域づくり協議会事業 の参加者数	37,664 人	48,787 人	40,929 人	39,804 人	37,804 人	37,383 人	40,000 人

○ 集落支援員の配置

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
集落支援員支援自治会数	—	—	—	5 自治会	累計 9 自治会	累計 18 自治会	累計 16 自治会

○ 活動費等への支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
社会活動や地域活動に 参加した市民の割合	70.5%	67.5%	61.9%	56.6%	54.8%	60.1%	75.0%

○ 活動拠点の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
自治会コミュニティ 活性化支援件数	—	11 件	累計 24 件	累計 40 件	累計 50 件	累計 67 件	累計 30 件

【検証】

- 地域づくり協議会の強化については、事業の参加者数が減少傾向にあることから、地域の特色を生かした事業等の実施について、各協議会や集落支援員との連携を進めながら展開していく。
- 集落支援員の配置については、新たに9自治会が自らの活性化に係る活動計画を策定し、次年度の活動につなげていく話し合いを実施した。集落支援員の活動について周知が図られてきていることから、さらなる活用の促進に向けPRを図っていく。
- 自治会の活動費等への支援及び活動拠点の整備については、各種補助制度が有効に活用され、自治会機能の維持と会員同士の交流の機会の確保につながった。社会活動や地域活動に参加した市民の割合も前年度から5.3ポイント増加している。

(3) 健康生き生き長寿社会の実現

(ア) 豊かなシニアライフの促進

○ 健康づくりの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
要介護・要支援認定率	18.0%	17.8%	17.3%	17.8%	17.9%	17.5%	17.9%

○ 介護予防の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
地域生き生きサロン 参加者数（年間）	1,792 人	4,393 人	7,597 人	11,338 人	12,039 人	13,089 人	6,592 人

【検証】

- 健康づくりの推進については、健康アップ名人講座や健康フォローアップ講座の開催、さらにはシルバーリハビリ体操の普及拡大や減塩対策の啓発が図られたことで、要介護・要支援認定率の抑制に一定の成果が表れたと捉えている。
- 介護予防の推進については、介護予防拠点となる地域生き生きサロンの新規開設が2か所増え、22団体によって活動が行われており、今後も更なる普及を推進していく。

(イ) 高齢者の安心を支える福祉サービスの充実

○ 高齢者の見守り支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
見守りネットワーク 協定事業所数	累計 59 事業所	累計 60 事業所	累計 60 事業所	累計 60 事業所	累計 63 事業所	累計 68 事業所	累計 70 事業所

○ 日常生活の援助

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
軽度生活援助サービス 提供時間	4,543 時間	3,348 時間	4,183 時間	5,230 時間	3,621 時間	1,689 時間	5,000 時間

○ 家族介護への支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
相談会、交流会延べ参加数	—	47 人	56 人	40 人	44 人	19 人	100 人

○ 認知症への総合対策

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
認知症サポーター1 人に 対する高齢者数	5.3 人	4.8 人	4.5 人	4.3 人	2.6 人	2.9 人	3.0 人

○ 介護関係施設整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	目標値 (R2)
整備施設数	—	—	2 施設	累計 2 施設	累計 2 施設	累計 3 施設	累計 2 施設

【検証】

- 高齢者の見守り支援については、新たな事業所が加わり、68 事業所との協定が実現している。
- 日常生活の援助については、軽度生活援助サービスを実施しているが、令和元年度は降雪量が少なかったことから、除雪サービスの提供時間が大幅に減少している。その他のサービスについては、前年度より利用件数が増加しており、ニーズに応じた支援策を講じることができた。
- 家族介護への支援については、介護用品支給や情報交換のための家族介護交流会を開催している。交流会は新型コロナウイルスの影響で予定していた開催数に満たず、参加者数が減少した。
- 認知症への総合対策については、初期集中支援チームを配置し、認知症ケアパスの活用や認知症カフェの設置、お守りシールの配布など当事者の声を取り入れた取組を推進しながら、総合的な支援体制を構築している。また、認知症高齢者の増加に対応するため、認知症サポーター養成講座の回数を昨年度から更に増やし、新たに 884 人の養成が図られた。
- 介護関係施設整備については、認知症対応型共同生活介護事業所（グループホーム）の整備が行われた。

Ⅲ 検証スケジュール

- | | |
|-----------------|---|
| ・令和２年６月１５～３０日 | 第６次総合計画後期基本計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略の事業実績に関する庁内ヒアリング |
| ・令和２年８月２４日 | 行政評価推進本部による評価 |
| ・令和２年８月３１日まで | 政策アドバイザーによる評価 |
| ・令和２年９月２日 | 行政評価市民会議による評価 |
| ・令和２年９月３０日 | 行政評価推進本部による評価の確定 |
| ・令和２年１０月１２日～１４日 | 市議会決算特別委員会開催（資料配付） |

